

平成 19 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



岩 田 克 夫 (いわた かつお)

社会福祉法人聖徳会・会長

1920 年 11 月 2 日生まれ

【授賞理由】

認知症の人たちに対するさまざまな対応は、保健医療福祉の連携という地域ネットワークの基礎を作るとともに在宅でのケアを可能にするものであった。また、歴史に学び今日を考え明日を思うというあなたの考えは高齢者福祉の基本的な考えともいえる。その功績に対し、本賞を授与するものである。

【略 歴】

1946 年 12 月～2002 年 12 月	社会福祉法人聖徳会・理事長兼施設長
1983 年 5 月～1992 年 5 月	全国老人福祉施設協議会・会長
1991 年 9 月～2000 年 4 月	全国在宅介護支援センター協議会・会長
1993 年 5 月～2000 年 3 月	龍谷大学短期学部客員教授

【功績、社会貢献】

岩田克夫先生が会長を務められている、社会福祉法人聖徳会は、明治、大正、昭和、平成と激動の社会の中で、老人福祉一筋に道を歩まれ、まさに日本のトップリーダーとして、様々な諸問題に常に柔軟的、即応的且つ先駆的に対応され、一世紀に亘りその役割を果たして来られた。養老院からスタートした、劣悪といっても過言で無い特養ホームで、ひたすら老人処遇の向上に努められ、単なる施設や設備の整備には留まらず、その時その時代におかれている「全ての老人の幸せ」を実現すべく、真摯に取り組んで来られた。それは、施設での認知症ケアの基礎を成すと共に、「ホームケア」と言う認知症をケアする家族をも支援するケア方法も開発された。とりわけ、老人ホームの社会化が叫ばれる中、松原デイケアセンターを併設し、市社会福祉協議会の給食サービス、ホームヘルパー、市保健師、さらには保健所の精神衛生指導員、訪問看護師、ボランティアなどと連携し、『松原方式』を完成された。さらに、連絡・調整と言う本来の機能を効率的に発揮するためにケアマネジメント会議が実践され、今日では、高齢者を取り巻く「保健・医療・福祉の連携」の実践で定着するまでになっている。